

事務事業名 児童生徒通学支援事業

出力日：令和04年03月15日

キーコード：567

施策：	18	学校教育の充実	財務コード	01090103-11-00
基本事業：	01	教育環境の整備	担当部	教育部
基本事業の成果指標	学校施設の維持管理上の不具合による教育支障件数		担当課	学校教育課
			担当係	学校教育担当



事務事業が貢献すべき成果

計画年度	昭和54年度 ~		新規・継続	継続	会計区分	一般会計	実施計画			
1. 対象（誰、何に対して事業を行うのか）			2. 手段（事務事業の内容、やり方、手順）							
天拝小校区児童、天山地区児童、平等寺地区児童、二日市東小校区児童、馬市地区児童			<ul style="list-style-type: none"> ・天拝小校区において、交通量が非常に多い交差点、危険箇所の登下校時の安全のため、指導員による安全指導業務を委託。（シルバー人材センターへ委託、朝夕2回、1日大門方面2名、塔原地区2名） ・天山地区児童の登下校時のスクールバス運転業務を委託。（シルバー人材センターへ委託、1日朝夕各2往復） ・平等寺地区児童下校時、バス待合室の監視業務を委託。（平等寺子ども会へ委託、1日1名） ・平等寺地区児童通学のため、積雪時の除雪作業を委託。（R1年度は除雪作業実施なし） ・二日市東小校区において、交通量が多い交差点、危険箇所の登下校時の安全のため、指導員による安全指導業務を委託。（シルバー人材センターへ委託、朝夕2回、1日2名） ・馬市地区児童の登下校時のスクールタクシーの運行を委託。（1日朝夕各1往復） 							
3. 意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）										
児童の通学における安全を確保する。										
4. 成果（簡易評価は未記入）										
成果指標名称		単位	01年度実績	02年度実績	03年度当初	04年度要求	05年度計画	06年度計画	目標	
安全確保された対象地区児童数		人	958	1,016	1,000	1,000			1,000	
5. コスト										
事業費		計	千円	7,971	10,893	11,246	11,733			
		国	千円	0	0	0	0			
		県	千円	0	0	0	0			
		地方債	千円	0	0	0	0			
		その他	千円	0	0	0	0			
一般	千円	7,971	10,893	11,246	11,733					
正職員人工数		人工	0.3	0.3	0.3					
正職員人件費		千円	2,420	2,409	2,376					
トータルコスト(事業費+正職員人件費)		千円	10,391	13,302	13,622	11,733				
6. 成果状況及びコメント（簡易評価は未記入）										
あがっている	対象地区児童に対し、スクールバス、スクールタクシーの運行業務委託、通学安全指導業務委託等の実施により、通学の安全確保をすることができた。 4,5月は新型コロナウイルス感染症拡散防止による臨時休校があり、出校日に応じて通学支援ができるよう事業者、学校と連携を図った。平等寺地区除雪作業は今年度は3日間実施し、通学で利用するバスが運行できるようにした。									
どちらかといえばあがっている										
あがっていない（停滞・低下）										
7. 評価及びコメント（簡易評価は未記入）										
対象動向	維持	類似事業	なし	通学路の危険箇所については、道路管理者、警察と連携し、ハード面での改善を図っている。 天山スクールバスは、入手後年数が経っているため、故障等した際の代替通学支援案を検討する必要がある。						
手段効率化余地	なし	コスト削減余地	なし							
公的関与	妥当性がある	受益者負担	余地なし							
上位貢献度	影響度は大	業務推進課題	あり							
成果向上余地	中程度									
8. 改善改革案（簡易評価は必要な場合のみ記入）						改善方向性	維持	見直し	廃止	事業終了
改革案/期待する成果/必要性/推進スケジュール/必要な費用（維持/事業終了の場合は記入する必要なし）										
事業開始背景及び現在の環境変化（市民・議会等の要望）						備考・特記事項 or 進行管理欄				
阿志岐小移転に伴うバスによる通学支援をH4年より開始。天拝小分離新設に伴いH14より交通安全指導を開始。筑紫東小分離新設に伴い馬市地区はタクシー通学支援を図っている。平等寺小廃校に伴い平等寺地区が積雪時、除雪実施。二東小の狭小通学路の安全確保のため、指導員の配置をH21年度より実施。						通学区域内の交通量は増加傾向にある。安全対策上、今後もスクールバスによる通学、危険箇所の交通安全指導、タクシーによる通学上の安全確保、除雪作業を行うことが地元保護者より要請されている。				